

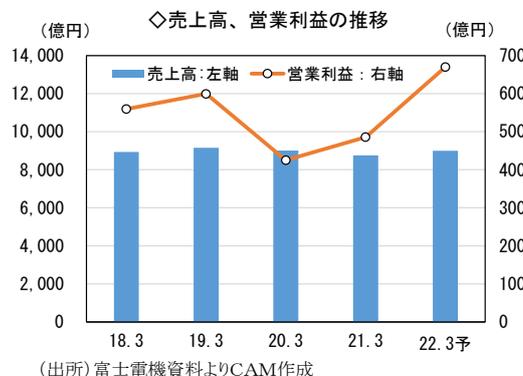
企業ニュース 富士電機

(東証1部：6504) <https://www.fujielectric.co.jp/>

作成者：奥村義弘

パワエリシステムやパワー半導体に強み

1923年、古河電気工業と独シーメンス社との資本・技術提携により、富士電機製造として設立、電気機器の輸入販売を開始。重電機器、家庭電器、通信機、計測器、半導体と事業領域を広げた。加速する自動車の電動化や再生可能エネルギーの導入などは同社への追い風となっており、強みとするパワエリシステムやパワー半導体への積極投資を進めている。22.3期・第2四半期累計の売上高構成比は、パワエリ・エネルギー26%、パワエリ・インダストリー32%、半導体21%、発電プラント7%、食品流通11%、その他3%。中期経営計画では、創業100周年の24.3期に、売上高1兆円、営業利益率8%以上の計数目標を掲げる。



パワエリや半導体が好調

22.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は、売上高が3,977億円、前年同期比11%増、営業利益が163億円、同208%増。7月時点の会社計画である営業利益115億円を大幅に上回って着地した。受注高では低圧インバータなどのFAが前年同期比55%増、半導体(産業+電装)が同42%増と強い momentum を維持した。また、自販機も同8%増となり回復基調。売上高はディスク媒体事業撤退の影響などで計画を下回ったが、営業利益は、主要コンポーネント(器具、FA関連、半導体)の需要増や固定費減を主因に計画を上回った。

22.3期の通期会社計画は売上高が9,000億円、前期比3%増、営業利益が670億円、同38%増。7月時点と比較し、営業利益は70億円上方修正された。セグメント別では、パワエリ・エネルギーで28億円、パワエリ・インダストリーで28億円、半導体で34億円計画が引き上げられた。特に第2四半期での半導体の収益性改善は好印象。中長期では電動車向けに、大幅な省エネや搭載製品の小型・軽量化を実現できるSiC(シリコンカーバイド)パワー半導体への対応を予定する。成長投資に向けて、投資有価証券の売却を行っている点も成長加速のサポート材料と評価したい。

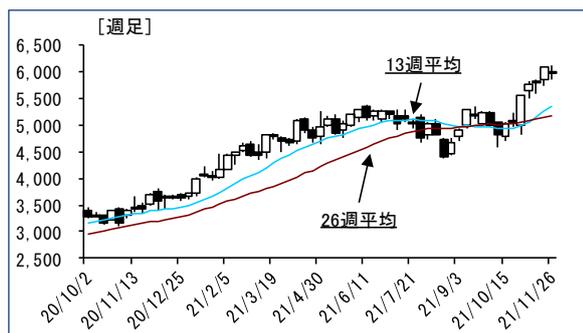
[株価動向・投資判断]

中間配当額は1株当たり45円(前年度40円)に決定、好業績を受け増配の流れは好感できよう。EV向けパワー半導体への期待は高く、高めのバリュエーション(PER)が許容されよう。

<6504 富士電機 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期利益 | 1株利益 | 1株配当 |
|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------|-------|
| | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 円 | 円 |
| 20.3 | 900,604 (▲2) | 42,515 (▲29) | 44,513 (▲30) | 28,793 (▲28) | 201.6 | 80.00 |
| 21.3 | 875,927 (▲3) | 48,595 (▲14) | 50,401 (▲13) | 41,926 (▲46) | 293.5 | 85.00 |
| 22.3 予 | 900,000 (▲3) | 67,000 (▲38) | 68,000 (▲35) | 50,000 (▲19) | 350.1 | 未定 |



| [主要株価指標] (売買単位:100株) | |
|----------------------|------------------|
| 株価(2021/11/26) | 6,000円 |
| 年初来高値(高値日) | 6,120円(21/11/25) |
| 同安値(安値日) | 3,650円(21/1/4) |
| 予想PER(22.3予) | 17.1倍 |
| 1株株主資本(PBR算出用) | 3,012.0円 |
| PBR | 1.99倍 |
| 予想配当利回り | —% |
| (1株当たり配当金 未定) | |
| ROE(21.3) | 10.7% |
| 発行済み株式数 | 14,930万株 |